

# 地域における実践教育の展開とSDGsの推進

## —大学と自治体との組織的な連携の実践—

○澤田小百合(九州女子大学・九州女子短期大学)・松田裕次郎(九州女子大学・九州女子短期大学)

Keyword : 地域課題解決、実践教育、SDGs

### 【背景】

九州女子大学・九州女子短期大学(表1以下、「本学」)では、「地域に根ざした実践教育を展開する大学」として、これまで取り組んできた教育・研究を地域社会の発展に資するため、平成27年6月1日に地域教育実践研究センター(以下、「本センター」)を設置した。本センターでは、学部・学科、および教員個々が実施してきた地域との関わりについての実態調査や地域が抱える課題や要望等を把握のうえ、「学生の質保証の強化」、「大学の教育・研究機能の活用」および「地域との共生」の3本柱を軸として、本学の地域貢献(型)による大学創りに取り組んでいる(図1)。

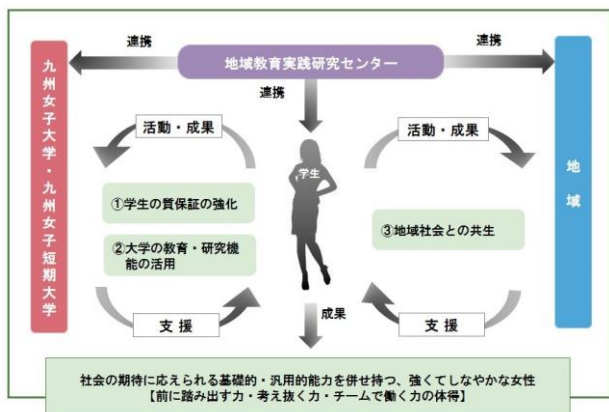


図1 地域教育実践研究センターの役割

本学は北九州市を始め、様々な自治体や団体(北九州商工会議所等)と協定を締結し、連携事業を推進している。本報では、本センターが平成27年度から実施してきた連携事業の中で自治体(北九州市、芦屋町、水巻町)との取り組みに焦点をあて、実施してきた事業が学生や地域にどのように還元できているかについて報告する。

表1 九州女子大学・同短期大学の基本情報

		学部・学科(専攻)	取得可能免許・資格(抜粋)
九州女子大学	家政学部	人間生活学科	中・高教諭一種免許「家庭」 二級建築士受験資格
		栄養学科	栄養士免許 管理栄養士国家試験受験資格
	人間科学部	人間発達学科 (人間発達学専攻)	幼稚園教諭一種免許 小学校教諭一種免許 特別支援学校一種免許 保育士
		人間発達学科 (人間基礎学専攻)	中学校教諭一種免許「国語」 高等学校教諭一種免許「国語」「書道」 図書館司書
			1,226名
同短期大学	子ども健康学科	幼稚園教諭二種免許 養護教諭二種免許 保育士	
	専攻科	養護教諭一種免許	
			290名

### 【連携事業内容】

本センター設置後、本学が位置する北九州市、近隣地域である芦屋町、水巻町と連携事業を推進してきた(図2・図3)。平成27年度の事業開始からこれまでに各事業の充実を図るとともに、新事業に挑戦している(表2)。

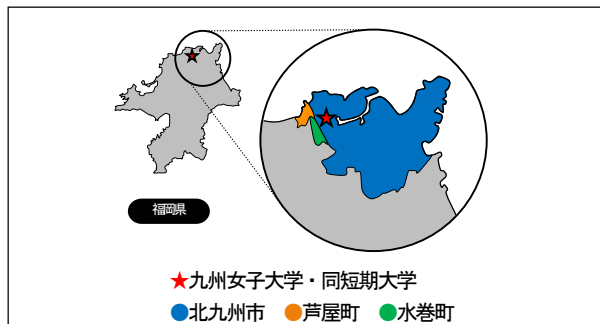


図2 本学と各自治体の所在地

●北九州市	場所：福岡県北九州市 人口：940,978人(2019年6月現在) 特産品：合馬たけのこ・小倉牛等
●芦屋町	場所：福岡県遠賀郡芦屋町 人口：13,797人(2019年6月現在) 特産品：ヤリイカ・鱈・赤しそ
●水巻町	場所：福岡県遠賀郡水巻町 人口：28,316人(2019年6月現在) 特産品：でかこんにく

図3 各自治体の基本情報

表2 連携事業一覧(H27~H30年度)

年度	連携先	実施内容
H27年度	北九州市	◎放課後児童クラブにおける公開講座
	北九州市	○放課後児童クラブの振興に関する連携事業
H28年度	芦屋町	◎さわらサミット推進プロジェクト
		◎芦屋町課題発見プログラム
		◎地域交流サロンにおける公開講座
H29年度	北九州市	○放課後児童クラブにおける公開講座 ◎放課後児童クラブ指導対象大規模型公開講座
	芦屋町	○さわらサミット推進プロジェクト
		○芦屋町課題発見プログラム
		○地域交流サロンにおける公開講座
	水巻町	◎災害食レシピ開発
	H30年度	北九州市
芦屋町		○さわらサミット推進プロジェクト
		○芦屋町課題発見プログラム
		○地域交流サロンにおける公開講座
水巻町		◎災害食レシピ開発
水巻町	◎水巻町の地域資源を活用したレシピ開発	

◎は新規事業

### 【各自治体との連携内容】

#### 1. 北九州市

##### (1) 北九州市放課後児童クラブの振興

放課後児童クラブの児童クラブの指導員を対象に本学教員による公開講座を実施し、児童の育成支援に繋げている。講座の実施実績は以下のとおりである(表3)。



表 3 北九州市との連携事業実績 (H27～H30年度)

年度	実施内容	受講者数	合計人数
H27年度	①遊び(レク) ②応急処置 ③ダンス・手遊び ④生活指導	7人 9人 11人 12人	39人
H28年度	①発達障害 ②ダンス・手遊び ③工作・美術 ④応急処置・アレルギー	13人 15人 14人 13人	55人
H29年度	①活動 ②不審者対応 ③大規模(健康観察と応急処置) ④大規模(児童期の関わり方)	23人 8人 94人 496人	621人
H30年度	①大規模(健康観察と応急処置)	92人	92人

## 2. 芦屋町

### (1) さわらサミット推進プロジェクト

芦屋町では特産品の一つである鯖を使った料理開発・活用を通し、芦屋町のブランド化に取り組んでいる。この施策として開催されるイベント「さわらサミット」の運営に本学が携わった(表4)。



表 4 さわらサミット実施実績 (H28～H30年度)

年度	実施内容	学生数
H28年度	①実行委員会への参加、②ロゴマークの作成、③園児とリズムダンスの実施、④書道パフォーマンスの実施、⑤ドレスコレクションの実施、⑥さわら巻の出店、⑦学術パネルの展示	46人
H29年度	①さわらソーセイジドッグの出店、②学術パネルの展示、③課題発見プログラムの実施	15人
H30年度	①さわらソーセイジドッグの出店、②学術パネルの展示、③課題発見プログラム学修成果の展示	15人

### (2) 芦屋町課題発見プログラム

人間生活学科のカリキュラムの中で、芦屋町をフィールドに課題発見プログラム(アクティブラーニングを中心に構成)を展開した(表5)。



表 5 課題発見プログラム実績 (H28～H30年度)

年度	実施内容
H28年度	「人が集う町、芦屋をめざして」をテーマに、安全・美化・観光の3分野の活性化に伴う解決案を作成した。役場職員の前で発表し、好評を受けた。
H29年度	「イベントの企画・実施」および「観光のための環境整備」の観点から、さわらサミットの会場に学生の育てた花を飾り、来場者へ手渡した。この結果、町のPRと本学の繋がりを認知してもらった。
H30年度	芦屋町役場の若手職員(地域の住民)と芦屋町の課題について、意見交換し、この結果から、課題解決の categories を広報・定住・イベントに分類のうえ、「芦屋町の未来を考える」をテーマとした。この category とテーマを土台に活性化に伴う解決案を役場職員の前で発表し、講評を受けた。

### (3) 地域交流サロンにおける公開講座

芦屋町の高齢者が集う「地域交流サロン」において、本学の教員による公開講座(硬筆教室)を実施した(表6)。



表 6 公開講座の実績 (H28～H30年度)

年度	実施内容	受講者数
H28年度	「えんぴつでなぞりながら読む徒然草」	12人
H29年度	「えんぴつで百人一首」	16人
H30年度	「えんぴつで蕪村・一茶」	18人

### (4) キャラバン隊による模擬保育

キャラバン隊は、九州女子短期大学の実践型教育として、幼稚園・保育所等において、模擬保育・模擬授業を展開する活動である。平成29年度～平成30年度で芦屋町の保育所・幼稚園にて活動を実施し、延べ45名の学生を派遣した。



### (5) 芦屋町祖父母学級における公開講座

平成30年度から、祖父母学級の高齢者を対象に3ヶ所の公民館にて本学教員による



公開講座(漢字のはなし～「目」を考えよう!～)を実施し、計41名が受講した。

## 3. 水巻町

### (1) 災害食レシピ開発

水巻町では、住民の防災意識の向上を一つの課題としている。このため、各家庭における災害時に備えた食材の備蓄を促すため、栄養学科がローリングストック法を取り入れた、備蓄食料や少ない調理器具を活用した栄養を補える食事のレシピを開発し、町民を対象に調理講習会を行い、災害食に対する意識の向上を図った(表7)。また、本取り組みが北九州市主催の北九州市防災フォーラム等の参加に繋がり、レシピの配布・展示等の周知活動を実施することができた。



表 7 災害食レシピ開発実績 (H29～H30年度)

年度	開発したレシピ	受講者数
H29年度	16品(主食9品、主菜2品、副菜3品、汁物2品)	30人
H30年度	アレルギー対応食8品(卵対応3品、大豆対応2品、小麦対応1品、乳製品対応2品)	19人

### (2) 水巻町の地域資源を活用したレシピ開発

水巻町の特産品である「でかんにんにく」のブランディングに寄与するため、学校給食の献立に活用できる「でかんにんにく」の調理レシピを16品目開発した。



### 【成果・今後の展開】

本センター設置初年度は、小規模な事業から開始したが、新規事業を展開したこと、およびこれらの事業が各方面から評価されたことで、新たな自治体との連携に繋がった。学生においても、各連携事業を通して座学だけでは学ぶことのできない実践的な力や汎用的な能力を習得することができ、本学が掲げている「地域に根ざした実践教育を展開する大学」の軸である「学生の質保証の強化」、「大学の教育・研究機能の活用」、および「地域社会との共生」への試みとして成果が現れている。

今後の展開としては、連携事業で開発した研究成果の商品化の可能性を模索し、企業を含めた産官学連携に向けた取り組みを推進する。さらに、持続可能な開発目標SDGs(国際目標)を踏まえた事業を推進することを重点課題として取り組んでいく(図4)。本学が位置する北九州市は、内閣府から、「SDGs未来都市」(全国29自治体)、および「自治体SDGsモデル事業」(全国10事業)に選定されており、SDGsの推進に取り組んでいる。本学の持つ教育・研究を地域へ還元し、一人でも多くの人の生活に反映することでSDGsへ繋げて行く。具体的には、連携内容で示しているとおり、本学の特色である「教育」「地域課題解決」「栄養」に関する事業に傾注して取り組み、専門性を活かしてSDGsを組織的に推進する。

図 4 SDGsの17目標



### 【引用・参考文献】

- 北九州市HP <https://www.city.kitakyushu.lg.jp/>
- 芦屋町HP <http://www.town.ashiya.lg.jp/>
- 水巻町HP <https://www.town.mizumaki.lg.jp/>
- 地域教育実践研究センター地域連携事業報告書